

# ワールド ウッドトレンド

No. 3, 10 JUNE 2016

## ヨーロッパにおける製材品及び木質パネルの生産と流通

### 1. 製材品：

#### (1) 針葉樹製材品

欧州産針葉樹製材品の生産量は、長期的に安定した傾向を見せていたが、ソ連の崩壊によって他の製品同様、1991年から大幅に下落した(図1)。1997年以降は上昇傾向であった生産量は2008年頃の金融危機に一時的に下落してからは増加している。

1960 - 1980年代に輸出高はゆっくりと上昇した。輸出増加が劇的な変化をみせ始めたのはソ連が崩壊してからである。1960年代の初めには約20%だった生産品の輸出シェアは近年、約50%にまで急上昇した。

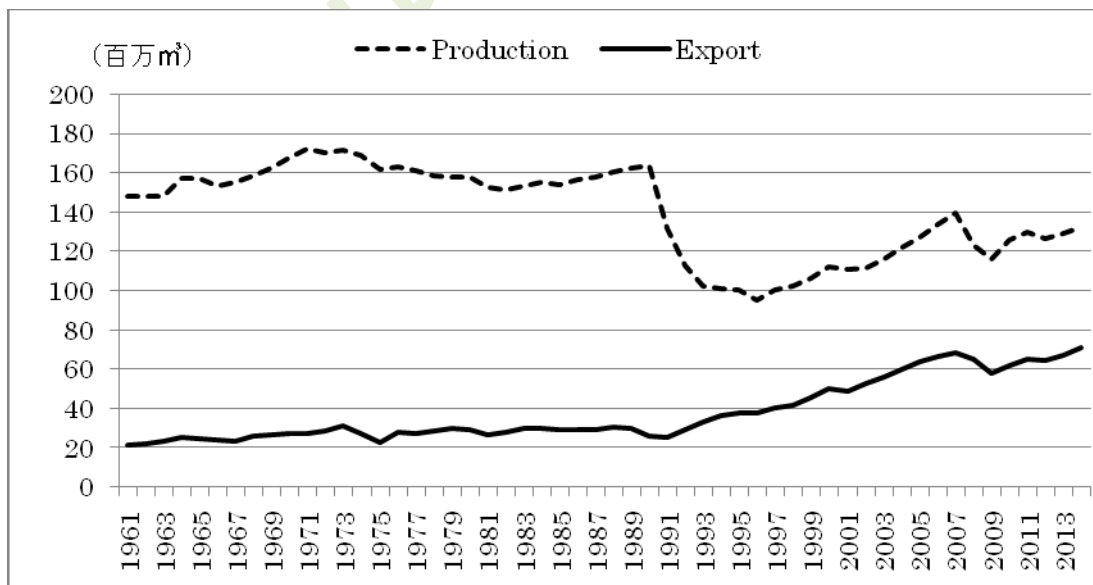


図1. 欧州産針葉樹製材の生産量と輸出量 (1961-2013年)

Source: FAO Stat

図 2 は日本の針葉樹製材品の輸入量と欧州からの輸入量のグラフである。欧州からの輸入は全体の大きな割合を占めている。と輸入量の下落は概ね 2009 年で終わり、以降は欧州からの輸入は増加傾向にある。1997 - 2013 年の日本の輸入量の増加率は 30~50%で、欧州全体の輸出量に対する日本への輸出量の割合は平均 5%程度である。

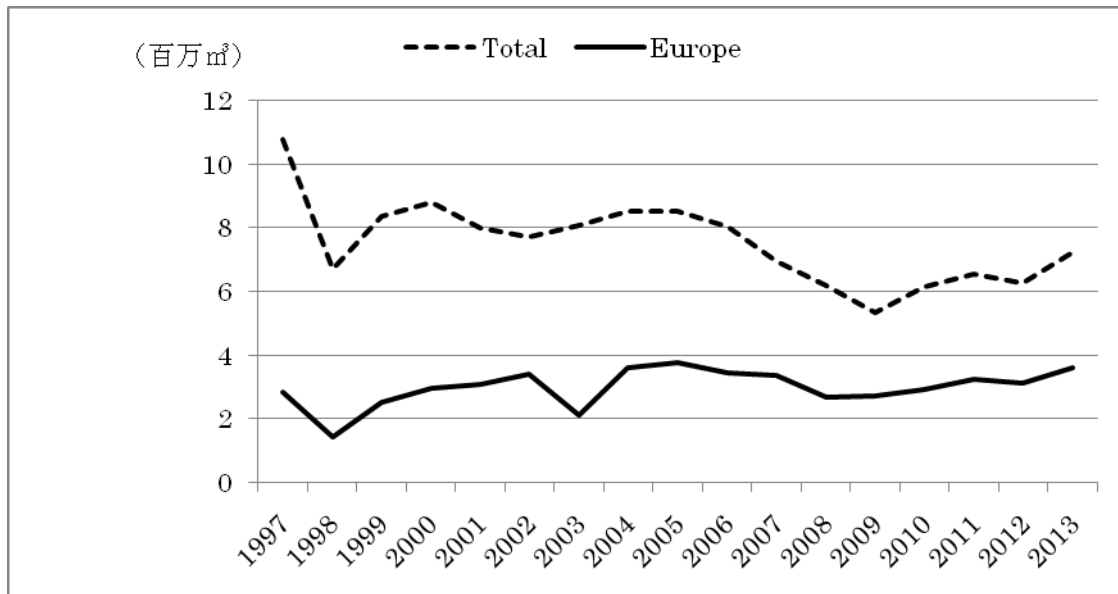


図 2. 針葉樹製材品：日本の総輸入量と欧州からの輸入量（1997-2013 年）

Source: FAO Stat

## （2）広葉樹製材品

欧州の広葉樹製材品の生産量は、針葉樹製材品と比べると少なく 2 割程度であり、その生産量も縮小傾向にある（図 3）。針葉樹製材と同様に、ソ連崩壊後に急激に減少した。

輸出に関しては、針葉樹製材と同様に上昇傾向を示しており、総生産量に対して約 10%であったものが調査終了時には 45%以上となった。

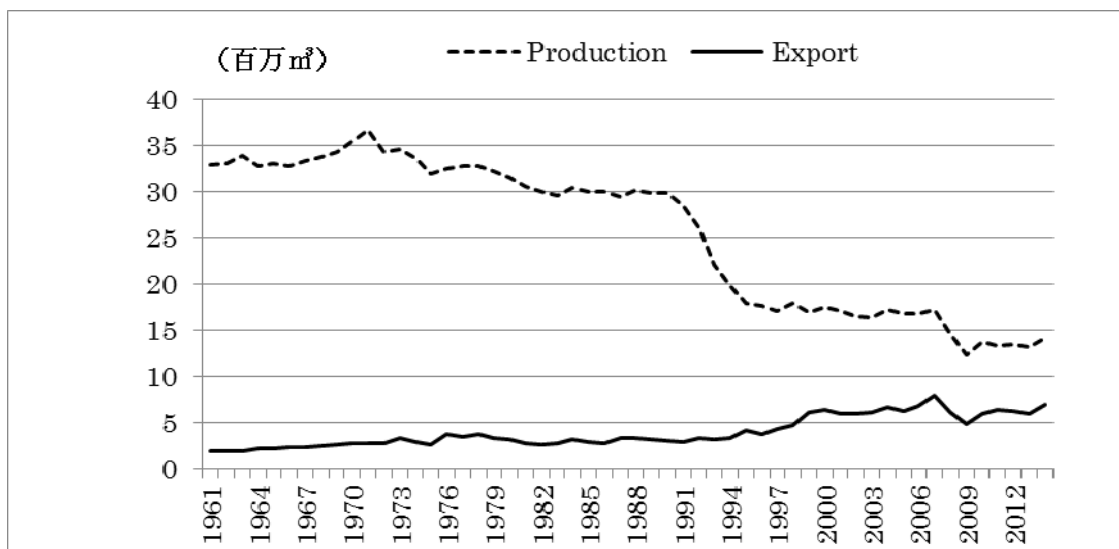


図3. 欧州産広葉樹製材品の生産量と輸出量 (1961-2014年)

Source: FAO Stat

広葉樹製材品の日本の輸入量は少なく、調査開始時の約 180 万m³から終了時の 20 万m³にまで減少した(図4)。欧州材の輸入量は極僅かであるが、総輸入量に占める割合は1990年後半の5%台から2000年代には10%へと増加した。

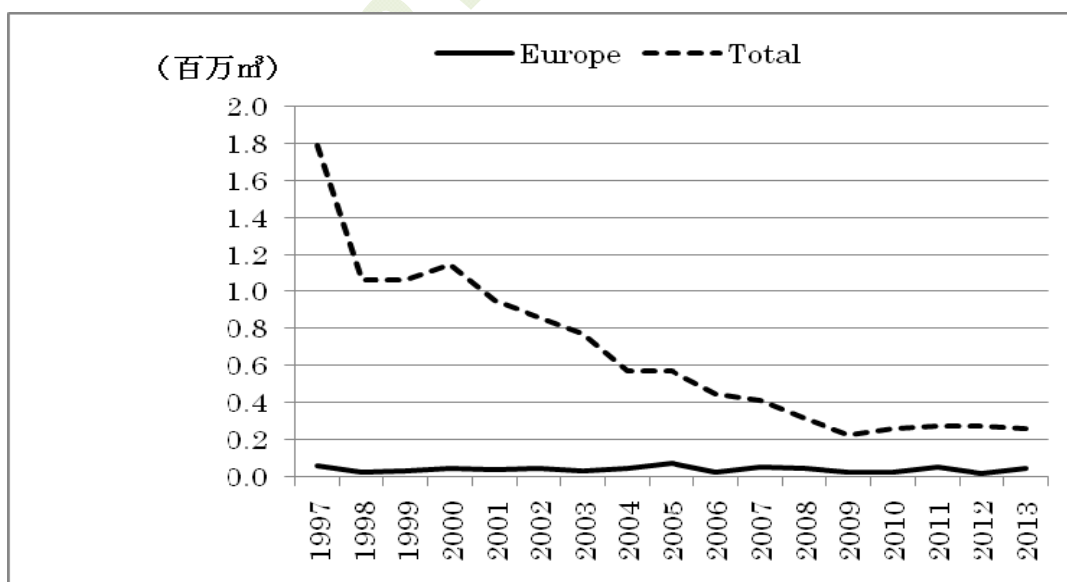


図4. 広葉樹製材品：日本の総輸入量と欧州からの輸入量 (1997-2013年)

Source: FAO Stat

## 2. 木製パネル

### (1) 単板

図5は1961 - 2014年の欧州での単板の生産量のグラフである。製材に比べてその生産量は僅かである。ソ連崩壊までは長期的な増加傾向を見せていたが、1990年代初頭に大きく減少した後、ゆっくりではあるが再び増加に転じている。

世界的金融危機の影響を製材ほどは受けず、生産量に対する輸出のシェアは60、70年代には安定しておりその後にシェア15%台から2014年の60%強へと増加した。

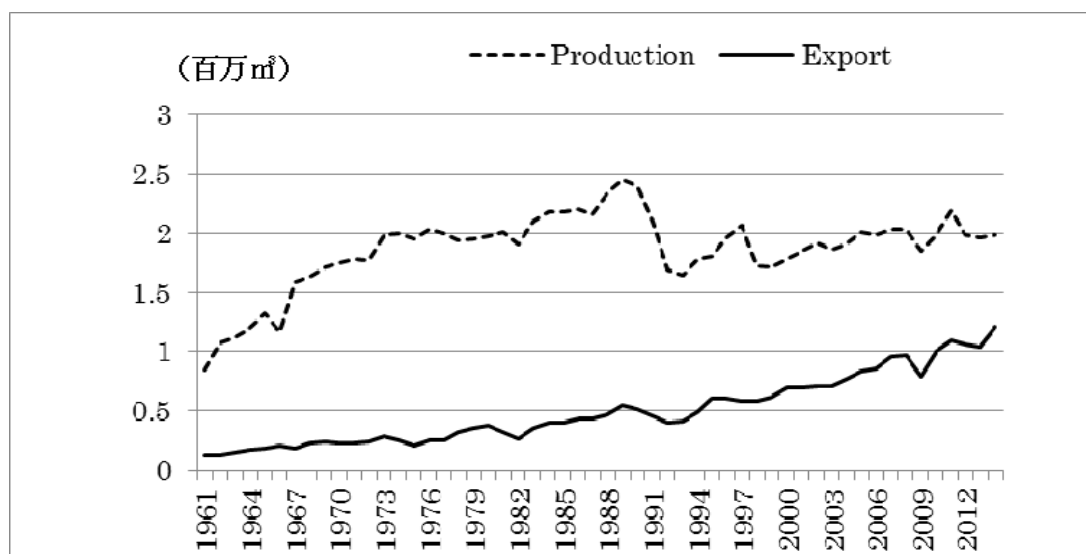


図5. 欧州産単板の生産量と輸出量 (1961-2014年)

Source: FAO Stat

### (2) 合板

欧州産合板の生産量は1960年代には増加していたが、1974年からの20年以上は長期的に減少し続けた(図6)。しかし、1995年を始まりに、金融危機に見舞われた2008年を除いては再び増加傾向へ転じている。調査から最初の30年はゆっくりとだったが、輸出量は調査期間を通して増加し続けている。これは、生産量に占める輸出量の割合が増加していることを表しており、2000年代は約75%のシェアを保ち安定している。

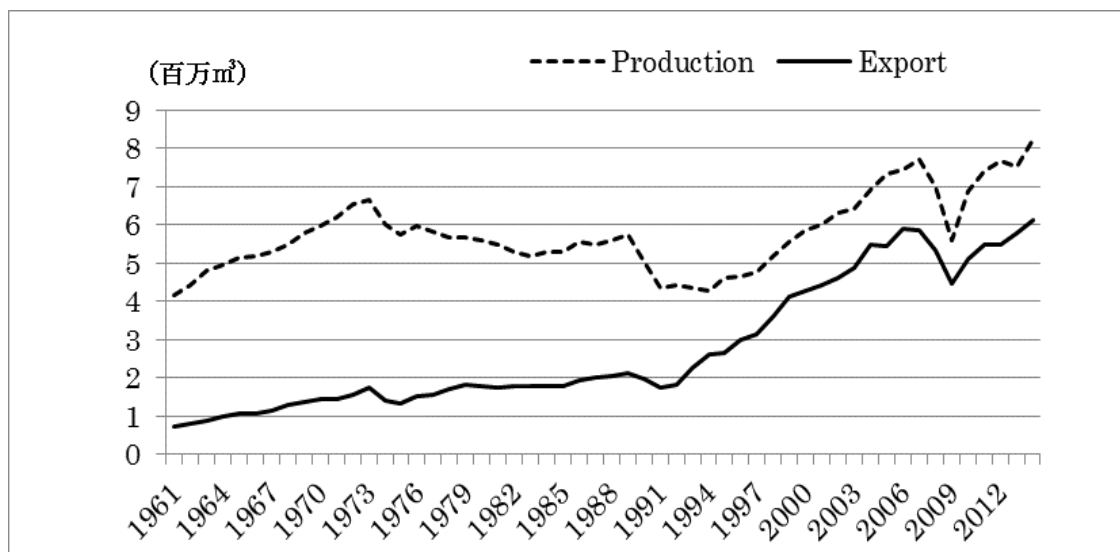


図6. 欧州産合板の生産量と輸出量 (1961-2014年)

Source: FAO Stat

### (3) パーティクルボード

欧州産パーティクルボードの生産量は調査期間を通して急速に増加し続け、2006年-2008年には500万m³から5千万m³となったが、それ以降は約4,500~4,600万m³まで減少した(図7)。

生産量に占める輸出量の長期的な傾向は増加を示しており、調査開始時は10%程度であったが期間終了時には36-37%のシェアとなった。また、最初の30年間はゆっくりと増加し、終了前20年の増加率は上がった。

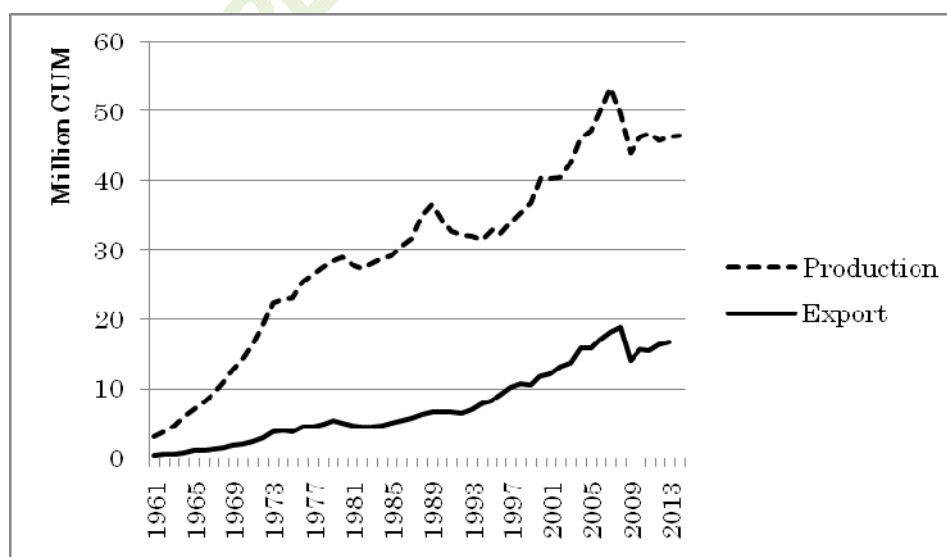


図7. 欧州産パーティクルボードの生産量と輸出量 (1961-2014年)

Source: FAO Stat

### 3. まとめ

欧州の木材産業は家具部門を含め、その多くが製造業界に依存している。生産された製品は構造用、造作用に関わらず、また家具のような装飾的なものであってもその大部分を製造部門の能力に委ねているからである。

建設市場では、西欧諸国の新設住宅着工率は低く、主に東欧諸国からの修理、保守、改善といった需要が多く、住宅建設の 50%、非住宅建設の 40%を占めて来た。しかし、近年は木造住宅の建設が増加してきており、主に中央西ヨーロッパや英国では需要が高く、今後も欧州全体、特に西欧に於いて木造建築の増加が期待される。

西欧の木材加工産業は、その競争力と利益を維持するために最新技術の導入を進めており、世界でも最も高い原料と人件費を費やしている。しかし、技術的進歩は加工業だけに留まらず、物流、輸送、調達などの分野に於いてもその恩恵を受けており、質的にも量的にも競争力を高めている。

技術開発はフィンランドやスウェーデンといった主要輸出国が主導しており、今では製材産業にも広がりを見せ、効率の良い付加価値の高い製品とサービスの提供を目指している。

産業強化が、従来より少ない工程と高い専門性、顧客重視の観点により、高い生産力につながる。

中密度繊維板、配向性ストランドボード、パーティクルボード産業では、過去数十年で最も重要な技術開発がプレス技術にもたらされ、生産コストが劇的に減少した。

建具や家具業界において労働賃金は主要な原価要素であるため、欧州企業は、技術面や加工面のサポートにコンピューターを採用し、木材の第一加工工程から商品の仕上げや組立工程に重点をシフトしている。

(本文は現地レポートを基に編集したもの)